

# 第31回 那覇地区中学校軟式野球1・2年生強化大会要項(日程変更案)

## (第13回全日本少年春季軟式野球大会那覇地区予選会)

1. 主催 那覇地区中学校体育連盟
2. 共催 沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、浦添市教育委員会、久米島町教育委員会
3. 後援 那覇地区中学校校長会、沖縄県野球連盟那覇支部
4. 期日 令和3年10月14日(木)16日(土)、17日(日) 予備日:無し
5. 会場 令和3年10月14日(木) 14:30(1回戦) 石嶺中学校(1)  
令和3年10月16日(土) 8:15(2回戦・準決勝) 浦添中学校(5)・浦西中学校(4)・石嶺中学校(5)・南部商業高校(4)  
令和3年10月17日(日) 8:30(決勝戦) 浦添中学校(1)・浦西中学校(1)・石嶺中学校(1) 予備会場 南部商業高校
6. 申込締切日 令和3年7月12日(月)の監督会・抽選会までに専門部長へ回答する。
7. 申込方法 (1)大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を入力し、プリントアウトしたものに学校長の捺印を受け、原本1部、コピー4部を、7月30日(金)までに松城中学校へ提出する  
(2)選手変更届は、那覇地区中体連野球専門部HPよりダウンロードし、校印を押印して、原本1部、コピー4部を10月16日(土) 7:30までに各球場長に提出する。  
※大会冊子作成のため申込用紙ファイルを那覇地区中体連野球専門部HP宛(nahabaseball@yahoo.co.jp)に7月30日(金)16:45までにメールを送信すること  
(3)ロジンを2個、大会当日各チームで使用する物を準備する。
8. 企画運営責任者 那覇地区中体連野球専門部  
石原孝之、渡嘉敷光範、大浜淳一、宮國稔基、仲村竜太、照屋茂伸、一安裕次郎、山里毅、宮良淳、當間栄太、野原大輝、安次富晃、根間誉、久高陵太郎、宮城尚久、島袋剛、下里洋介、山城千尋、足立忠敬、根間豊、伊佐常克、多和田真司、大城征一郎、比嘉政人、謝花廉、仲本政毅、瑞慶山良樹、眞崎陽介  
  
運営委員 那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問
9. 参加資格 (1)那覇地区中体連加盟校に加盟している学校の生徒であること。  
(2)学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。  
(3)1チームは、選手20人、記録員2人、監督1人、コーチ2人の計25人とする。  
(4)選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督については校長・教職員(常勤)とする。  
教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。  
但し、ベンチ入りについては1名のみとする。  
(5)硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。  
(6)参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
10. 競技規則 2021年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、大会細則を適用する。  
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。  
・大会中の1日の投球制限・・・100球  
・1週間の投球数・・・350球  
※試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
11. 大会規定 (1)ブロックトーナメント方式とする。  
(2)試合は16日を5回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降7点差とする。  
決勝戦は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差5回以降7点差を適用する。  
また、日没・降雨のコールドゲームについては全試合5回以降成立とする。  
日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンテッドゲーム)を適用する。  
(3)延長戦は、タイブレークを適用する。タイブレークは無死1、2塁の状態継続打順で開始する。  
勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で繰り返し、原則10回までとする。10回を完了しても決着がつかない時は、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦・代表決定戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまでタイブレーク方式を続行する。  
(4)今大会は100分ルールを適用する。(100分を超えて新しいイニングに入らない。)  
時間を過ぎて同点の場合は次のイニングからタイブレークを適用する。
12. 試合球 全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
13. 組合せ (1)令和3年7月15日(水)に浦添中学校コンピューター室にて行う(※ 日程・会場変更により、9月末日に再抽選を行う)  
(2)抽選は、原則として各学校の監督が行う。但し、今回はコロナウィルスの感染拡大を考慮し、専門部に  
て本部抽選とする。
14. 表彰 (1)各ブロックの優勝・準優勝チームには賞状を与える。
15. その他 (3)今大会のブロック優勝の3チームには、第13回全日本少年春季軟式野球大会沖縄県予選大会への出場資格を与える。

# 第31回 那覇地区中学校軟式野球1・2年生強化大会 細則

## (第13回全日本少年春季軟式野球大会那覇地区予選会)

1. 試合時間 (1) 試合は5回90分と計算し、次の試合のチームは、前の試合開始時間までに集合する。  
(2) 連続試合の場合は間隔を40分間とする。
2. オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(4部提出)  
(2) 攻守決定は、前の試合の3イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダックアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。  
登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。  
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。  
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック (1) 大会運営上の理由により、16日の全試合、シートノックは行わない。  
  
※決勝戦について、天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
5. 応援 (1) 無観客試合とする。但し、各チーム緊急対応保護者4名を会場に待機させる。  
(2) 会場入りできるのは、登録メンバーのみとする。  
(3) 会場入りする名簿を作成する。その名簿は、各チームで保管し万が一感染症が発生した場合は速やかに追跡調査ができるように、各学校の顧問で保管する。  
(4) 緊急対応保護者以外の保護者・一般による観戦を会場周辺で行うことを禁止する。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限 (1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。  
なお、延長戦(タイブレークも含む)となった場合は、1イニングに1度行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限 (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)は1イニングに1回行くことができる。  
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具 (1) バットリング、トレーニングバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。  
(但し、マスコットバットも使用不可)  
(2) 手袋・リストガードは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。  
(3) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。  
(4) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク(SGマーク)・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
9. 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。  
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。  
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。  
(4) 次打者席では投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。  
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他 (1) 背番号は1~20番を使用し、原則としてポジション順とする。  
(2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。  
尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。  
(シューズ・スパイクにおいては令和3年度までの大会において色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする。)  
コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。  
(3) ストッキングの形をしっかりと統一する。  
(4) 選手交代は、監督が球審に告げること。  
(5) 球場内においての試合前の練習はユニフォーム又は、統一のチームシャツを着用すること。  
(6) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。  
(7) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。  
(8) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。